

浮津港の守り神？

天子神社

□鎮座地

垂水市二川1184（浮津）

□御祭神

景行天皇（第12代天皇）

□御神体

銅鏡

天子神社の御祭神

天子神社は、名の由来は不明ですが、『垂水市史料集（八）牛根篇』では、魚とりの集落として漁民が集まり、「蟹子神社」（蟹は漁民のこと）とされ、のちに天子の字に代えたのではとされています。

御祭神の景行天皇は、垂仁天皇（第11代天皇）の第3子で、82年頃

に弥生時代に南九州征伐に赴き、肝付平野の長は降伏しましたが、国分平野の長は、降伏しませんでした。

その後、子どもの日本武尊（やまとたけるのみこと）が、再び父と同じ経路で、97年頃に熊襲（隼人）征伐に赴き、南九州を平定している事が伝えられています。

古代史の史料『国造本紀』には、「大隅国、国造りは代朝御世（景行天皇）隼人を治平」とあり、御祭神が天皇の御名であるのは、この地が古くから港としていて、景行天皇が上陸されたからなのかもしれません。

宇喜多秀家公とのかかわり

慶長6年6月（1601年）関ヶ原の戦いで、西軍の大將の一人である宇喜多秀家公が出陣しましたが、東軍（徳川）に破れて、西軍として一緒に戦った薩摩藩へ逃げて来ました。薩摩藩でかくまうことになりましたが、鹿児島島の鶴丸城には迎えずに、この時、浮津港に上陸している牛根麓（辺田）の平野屋敷にかくまいました。牛根は、自然の要塞で隠れる所として最適な場所（逃隠の地）と言われ、隠蜜も入りづらい場所でした。

その地は、宇喜多氏から、「浮（宇喜多）津」（つきつ）と、地名が付いたとも言われています。

天子神社の椰の木

天子神社の神殿の後ろに、樹齢500年ほどの「椰の木」があります。幹回りが3.5メートルもある

垂水市には少ない巨木です。

椰の木は、古くから熊野信仰と結びつき、霊木して多くの神社に植えたといわれています。裂けにくいことから「縁が切れない」縁起の良い木とされ、縁結び、夫婦円満の木として、崇められています。また、「なぎ」は「凧」と例えられ、船乗りが航海安全を司る木として、葉や実をお守りとして、身に付けたり、供えたりして航海の安全を願ったそうです。



▲天子神社

【参考資料】
『垂水市史料集（八）牛根篇』
『国造本紀』

（垂水市文化財保護審議員・隈元信）

SECOND SEASON

しょっかい 食改 キッチン

Healthmate recipe of this month

食改さんをご紹介



前田 和子さん、野元 千代子さん

今月のレシピ

いこもち

今月のレシピを調理したのは、
岩元 ナリ子さん、石野 勝子さん



【材料】（1本分）

- いこもち粉／250g
- 砂糖／250g
- お湯／300cc
- 片栗粉／大さじ2
- 食紅／少々

いこ餅は炒った米を使った鹿児島県の郷土料理です。食紅の代わりに、「抹茶」を加えれば、緑色のいこもち。白砂糖を「黒砂糖」に替えれば茶色のいこもちができます。

食改
完了

② 分量の水を沸かし、沸騰したら、砂糖を加えて溶かし、食紅をいれる。

① ボウルに、いこもち粉を入れる。

④ 全体が混ざったら、手でよく捏ねて丸める。
※手にも片栗粉（分量外）をつけながら、捏ねるとつきにくい。

③ ②を①にすぐ加え、しゃもじやすりこぎなどで突き混ぜる。

⑥ 乾いたまな板の上に片栗粉を振り、その上に型から抜いて、形を整え、好みの厚さに切れば・・・

⑤ 好みの型に片栗粉を全体にまぶして④を詰める。

いこもちの完成です！

【1本分あたり】
エネルギー 1673kcal / 食塩相当量 0g